

志賀直哉旧居 奈良学園公開文化講座(2024 年後期)

第72回《志賀直哉と靈性：私の終活》

2024年9月30日(月) 14:00~16:00

講師：大原荘司

奈良学園志賀直哉旧居館長

終活とは、「自己の靈性の開発と発展」である、という結論を妙好人などの事跡に基づいて論証する。人間の心(身)は感性と知性と靈性で構成されているという考えにより、志賀直哉の靈性と十字架の聖ヨハネの「暗夜」などを手掛かりとして、靈性開発のシナリオを探究する。

第73回《大和の雅陶 赤膚焼について》

2024年10月28日(月) 14:00~16:00

講師：小川二楽

赤膚焼窯元

前奈良県工芸協会理事長

赤膚焼は奈良を代表する陶器の窯ですが、活動時期がいつから始まったかは、よくわかりません。郡山城主豊臣秀長創始説が一番古い時代になりますが資料が乏しい。江戸中期、柳沢郡山藩三代目保光ころの資料がようやく整ってきています。幕末には奥田木白の出現で赤膚焼の評価が高まりました。私の視点から赤膚焼を考え直してみたいと思います。

第74回《歌い継ぐ『日本の心の歌』～箏曲の調べとともに～》

2024年11月19日(火) 14:00~16:00

講師：瀧明知恵子

奈良学園大学人間教育学部元准教授

箏：篠原歌鸞(生田流筑紫会飛梅司大師範)、塩崎歌鸞路(生田流筑紫会大師範) 尺八：神谷仟山(都山流竹琳軒)

日本の童謡・唱歌を英語訳しているグレッグ・アーウィン氏は、「童謡に込められた『日本の心』は、米国人の私にも深く響いてくる。日本の童謡は美しい。世界に誇れる歌だと思う。それに気づいていないのは日本人自身ではないだろうか。」と語っています。今回は「秋」をテーマに童謡や唱歌、叙情歌に託された「日本の伝統文化、美しい景観や思いやりの心」を箏や尺八の調べと共に皆様方と味わい歌い合います。また、筑紫歌都子作曲「ながれ」など、伝統ある美しい調べを尺八や箏二重奏でお贈りします。日本が世界に誇れる音楽文化を次世代に引き継いでいけたらと思います。

第75回《『源氏物語』を読む一桐壺の巻③—》

2024年11月27日(水) 14:00~16:00

講師：鍵本有理

奈良学園大学人間教育学部准教授

6月の講座に引き続き、『源氏物語』の「桐壺巻」を読み進めていきます。桐壺更衣亡き後、藤壺女御の入内(じゅだい)や源氏の元服など、今後の展開のもととなる重要な場面について、原文を読み解いていきます。

また、大河ドラマ「光る君へ」に関連して、史実や古典読解の面から注目されることならについても、適宜取り上げることとします。

第76回《古代ギリシャの死生観》

2024年12月9日(月) 14:00~16:00

講師：上野久美子

奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校教諭

人は死ぬとどうなるのか？それはおそらく誰もが一度は考えたことのある根源的な問いです。古代ギリシャ人は、後にキリスト教や仏教で説かれた思想とは異なる死生観を持っていました。「死」について考えることは、「生」について考えることでもあります。人間の魂や霊、死に関わる神々や死後の世界といった「死」にまつわる古代ギリシャの神話や寓話、哲学的対話や墓碑銘などの史料を通して、古代ギリシャの死生観に迫ります。また、古代日本における死生観との比較も試みます。

◆参加費	各回 350 円 入館料込 (奈良学園教職員、在籍者は無料です)
◆定員	各回 25 名(事前申込先着順) ※定員になり次第、申込を締め切ります
◆会場	志賀直哉旧居(奈良学園セミナーハウス) 奈良市高畑町 1237-2
◆申込	志賀直哉旧居(0742-26-6490) (seminar@naragakuen.jp) にお申し込みください
◆主催	学校法人奈良学園志賀直哉旧居(奈良学園セミナーハウス)



志賀直哉旧居 HP